

# ●特集 回顧と展望 中日平和友好条約二十年

中日国交正常化が実現して六年後の一九七八年、中日平和友好条約が締結された。中日両国の国家関係の基本方向を定めたこの条約は、冷戦の枠組みの中で、社会制度の異なる国同士が友好関係を樹立する場合のモデルとなった。その後、時代は激変したが、条約の基本精神は今も脈々と息づいており、条約そのものも効力を持ち、二十一世紀の中日関係の発展にも重大な影響を及ぼすこととなるだろう。

この重要な日を記念するため、本誌は「中日関係の回顧と展望」を特集としてお届けする。新しく駐日大使に就任した陳健氏は日本赴任前に本誌

## 中日の友好関係は新段階に ——陳健新駐日大使に聞く



「わたしにとって日本は真新しい世界だ」と語る陳健大使

のインタビューに応じてくれた。日本側からは中日国交正常化のために大きく貢献された、階堂進氏にその記念すべき当時のことを書いていただき、元駐中国大使中江要介氏は、本誌に寄せた原稿の中で中日関係の発展について自分の考えを述べた。さらに中日友好協会の王效賢副会長に条約締結当時の感想を書いていただいたほか、駱為竜氏、馮昭奎氏、小島朋之氏ら日本問題、中国問題の研究者にもそれぞれの角度と立場から中日関係の現状と未来図を分析、考察していただいた。中日両国が友好を強めることを期待しながら、これらの文章を中日平和友好条約締結二十周年に献じたい。

ように重要な時期に差し掛かっているときに、大使の重職にお就きになるのをどうお考えですか。

大使 日本はお隣りの友邦で、アジア・太平洋地域や世界においても影響力のある国です。日本駐在の中国大使に任命されたことをとても光栄に思います。また責任の重さをひしひしと感じております。わたしはかつて国連で長年仕事をしましたので、欧米の事はわりには詳しい方で、日本は全く新しい領域です。

——大使は国連時代にすでに、国際的にも知名度が高かったし、外交部スポークスマンを務められていたころは、内外の記者団に深い印象を残されました。朝鮮半島をめぐる中米朝韓四者会談に携われたときは、各国代表団が中国代表団の陳団長に深く敬服していました。外交官として素晴らしいキャリアをお持ちです。

日本駐在の新大使に決まった陳健さんを外交部（外務省）の部長助理（外相補佐）室に訪ね、所感を聞いた。大使は会見の中で、この秋の江沢民主席の日本訪問によって中日両国の友好関係は新しい段階を迎える、と訪問の意義を強調した。

——駐日大使にご就任おめでとうございます。きょうはお忙しいところ、お時間を割いていただき、ありがとうございます。これからは部長助理ではなく大使とお呼びしなければ……。（笑い）中日関係が今日のですか。（笑い）

——九六年、ASEAN地域フォーラム（ARF）を主管されるようになってからはASEAN各国から広く尊敬と信頼を集め、高官会議のときは中国代表の発言がよく注目された、といわれていますが……。

大使 ASEAN各国は中国の重要な隣国です。ARFが発足して五年になります。次第にアジア・太平洋地域での安全保障に関する重要な協議の場に発展しました。中国とASEAN諸国との関係の発展のために、お役に立ったならうれしいです。

——九七年、中米朝韓四国による朝鮮半島の問題についての四者会談に、大使が中国代表団を率いて参加された際、中国側の立派な態度は称賛的になりました。九八年三月ジュネーブで開かれた第二回公式会談で中国は議長を務めましたね。大使はこの会談で「チーズ外交」を展開されたそうですが……。

大使 朝鮮半島では関係各国が長年敵対してきたので、厚い氷と同じ



四者会談のメンバーとチーズ工場の見学に出掛ける陳健氏（前列右から2人目）

突くパフォーマンスもありました。例えば、初めて外交部スポークスマンとして記者会見に臨まれたとき、慣例のように舞台のそでからではなくて、記者席の間の通路を通過して登場されましたね。すごく効果的でした。

大使 実はこれはプレッシャーを和らげるためでした。舞台のわきから出たら、いきなり大勢の記者団の前にして緊張しま

に挑戦するわけです。

——大使は生まれつき挑戦好きのほうですか。

大使 生れつきではありません。「養成されてはじめて……好きにならされたのです。（笑い）」

——外交部スポークスマン時代、流ちょうな英語で機知とユーモアたっぷりに記者たちの質問をさばいた手腕は有名です。みんなの意表を

突くパフォーマンスもありました。

例えば、初めて外交部スポークスマンとして記者会見に臨まれたとき、慣例のように舞台のそでからではなくて、記者席の間の通路を通過して登場されましたね。すごく効果的でした。

大使 実はこれはプレッシャーを和らげるためでした。舞台のわきから出たら、いきなり大勢の記者団の前にして緊張しま

く一夜にして溶けるわけがありません。会談は難航しました。中国側は会談の雰囲気や和らげるため、会議の合間に遠足を企画したりしました。四カ国の代表全員がふだん着で郊外へ出かけて、中世のとりでを見たり、チーズ工場を見学してチーズを試食したりしました。マスコミにも公開し、リラククスして協力するムードを醸しました。これが後に中国代表団長の「チーズ外交」といわれたのです。

——朝鮮半島の問題が解決する日が来れば、みんなは「チーズ外交」の貢献を思い出すことでしょう。大使は日本でも、「チーズ外交」を続けますか。（笑い）

大使 中日関係は今またとない発展の機会に恵まれています。二十一世紀へ向け長期的に安定した善隣友好関係を築くことは両国の共通の利益だけでなく、アジア・太平洋地域ひいては世界の平和、安定、繁栄を維持する上にも重要な意義を持っています。わたしは、誠意をもって力の限り努力し、中日関係を絶えず新しく発展させるように全力を挙げます。江沢民主席が間もなく訪日しますが、中国の最高指導者が日本を訪問するのは二千年の両国交流史上空